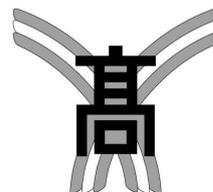


君の授業に乾杯。



【授業観察期間が始まります】

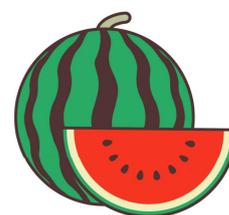
授業観察期間は、相互に授業を観察し、それぞれのよいところを学び合う取組です。例年、10月中旬から11月でしたが、今年度は9月1日から11月30日までの3か月を観察期間として設定します。

期間中に先生方にさせていただくことは、以下の二つです。詳細は後日、要項でお示しします。

- ①授業者として…事前にA4版の指導案を作成し、職員朝礼で配付し、授業実践を行います。
- ②観察者として…期間中に4回ほど他の授業を観察し、観察カードに必要事項を記入、提出します。

【第1回授業改善研修会を行います】

- 日時 8月27日(木) 15:50~16:50(予定)
- 講演者 広島経済大学 教養教育部 教授 胤森 裕暢 先生
- 演題 主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫～ペアやグループによる振り返りを通して～



打ち合わせのため、7月末に経済大学を訪れて胤森先生とお話をしました。本校の実情や課題をお話したうえで、決定したのが上記の演題です。「振り返り」に特化して、その意義やより有効な手法について「協同的な振り返り」という視点でお話をいただくことになっています。

打ち合わせの中で、「昨年度まで協同学習を進めてきたが、コロナ禍により現在はペアワーク程度しかできない状況に陥っている」「第二波に備えてオンライン授業の準備を進めているが、まだ手探り状態である」といった本校の現状もお伝えしました。胤森先生からは次のようなお話をいただきました。

- ・オンライン授業が全国的に浸透すれば、塾のいわゆる「カリスマ講師」の需要が高まるだろう
- ・それに負けないよう、現場をあずかる高校教師としての「強み」を高めていく必要がある
- ・オンラインにない学校の「強み」、それは実際に生徒と対面していることだ
- ・彼らの意欲をたばねて引き出す、グループ活動のコーディネータとしての役割が今、求められている

塾と学校の教員の仕事は、全く別物です。例えば「鎌倉幕府が140年、室町幕府が実質120年ほどしかもたなかったのに、江戸幕府はなぜ270年も続くことができたのか」という課題にみんなで取り組んで、図書館やインターネットで調べプレゼンし合う、そんな授業は塾では行いません。国語で朗読や詩・俳句の創作活動などに力を入れるのも、理科で器具を使って実験を行うのも、学校の授業の特徴です。

どちらがいいとか、悪いとかいう話ではありません。目的が違うのです。それはいわば陸上の100m走と十種競技を比較するようなもので、意味のあることとは言えません。

だからこそ「塾ではできない学校の教員ならではの強み」を高めるのは、大いに意味のあることだと考えます。講演会でそのヒントを得て、広く議論し、力を高めていきましょう。お忙しいとは思いますが、遅れずにご参集ください。